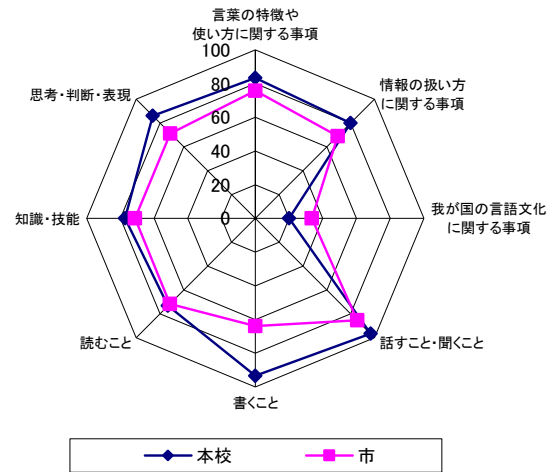


# 宇都宮市立国本西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

	本年度			
	本校	市	参考値	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	83.3	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	80.0	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	20.0	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	96.7	85.5	86.5
	書くこと	93.3	63.9	65.8
	読むこと	73.3	71.6	69.5
観点別	知識・技能	77.3	71.3	72.9
	思考・判断・表現	86.0	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

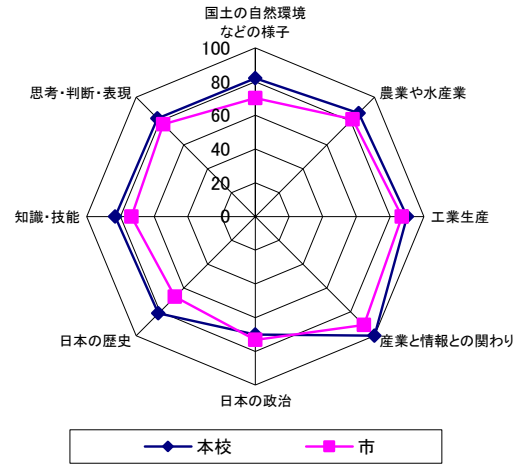
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>○領域全体の平均正答率は83.3%で、市の平均正答率を7.5ポイント上回っている。特に漢字の読み書きについての設問では、市の平均正答率を大きく上回っている。</p> <p>●文の接続の関係について問う設問では、市の平均正答率を上回っているものの、正答率が50.0%であった。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・文章を書くときに新出漢字や既習漢字を使うよう、指導を継続する。また、同訓異字の意味や使い方を指導する。</p> <p>・授業中の感想や振り返りを書く場面、日記を書く場面などでも、漢字を使うことや文のつながりを意識して取り組めるように指導する。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>○領域全体の平均正答率は80.0%で、市の平均正答率を10.9ポイント上回っている。</p>	<p>・文章を読む際に、原因と結果、考えと理由や事例、意見と根拠、全体と中心などを情報と情報の結びつき方を捉えたり整理したりしながら読んでいくよう声を掛け、習慣化できるようにする。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>●領域全体の平均正答率は20.0%で、市の平均正答率を13.5ポイント下回っている。</p>	<p>・言葉の学習の際には、読みや意味だけでなく、和語、漢語、外来語等の語句の由来などについても関心をもたせていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>○領域全体の平均正答率は96.7%で、市の平均正答率を11.2ポイント上回っている。</p> <p>○話の内容を捉える設問と、意図に応じて質問を工夫する設問については、平均正答率は100%であった。</p> <p>○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える設問では、平均正答率は90.0%で、市の平均正答率を大きく上回っている。</p>	<p>・話し合いの学習を行う際には、様子や視点から検討し、自分の考えを広げたり、互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点をまとめたりするよう指導する。</p> <p>・インタビューなどで話を聞く際には、話の全体を捉えた上で、自分が聞こうとする意図に応じて内容について注目できるように指導する。</p>
書くこと	<p>○領域全体の平均正答率は93.3%で、市の平均正答率を29.4ポイント上回っている。</p> <p>○目的に応じて、指定された長さや構成で文章を書くことができおり、全ての設問で、市の平均正答率を大きく上回っている。</p>	<p>・自分の考えが明確に読み手に伝わるようにするためには、目的や意図によって書き方が変わることを指導し、書き方の工夫ができるようにする。</p> <p>・文章を書くときは、自分の伝えたいことをより明確にすることを意識させる。また、推敲する必要性を指導する。</p>
読むこと	<p>○領域全体の平均正答率は73.3%で、市の平均正答率を1.7ポイント上回っている。</p> <p>○登場人物の様子について描写を基に捉える設問では、平均正答率は100%であった。</p> <p>●叙述を基に文章の内容を捉える設問では、平均正答率は30.0%で、市の平均正答率を20.6ポイント下回っている。</p>	<p>・物語を読む際には、表現の効果を考えることができるようにするために、感動やユーモアなどを生み出す叙述、メッセージや題材を強く意識させる表現など、様々な表現に着目して読むことを意識させる。</p> <p>・説明文を読む際には、段落間の関係を視覚化させたり、問いに対応する叙述に線引きをしたりして、関係図や表に整理する活動を取り入れ、情報を構造化する習慣を図っていく。</p>

# 宇都宮市立国本西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	82.0	70.3	66.4
	農業や水産業	86.7	81.6	75.3
	工業生産	90.0	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	100.0	91.0	81.3
	日本の政治	70.0	73.2	75.3
観点別	日本の歴史	81.3	67.4	68.5
	知識・技能	83.1	73.5	72.5
	思考・判断・表現	82.2	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

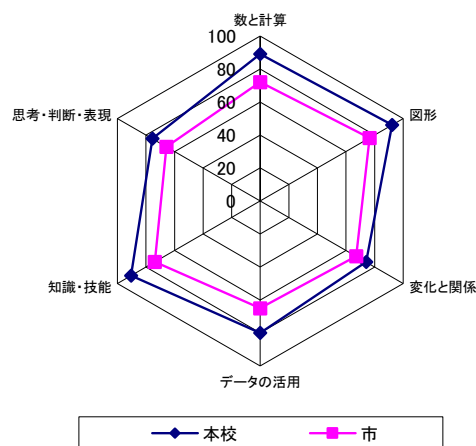
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○領域全体の平均正答率は82.0%で、市の平均正答率を11.7ポイント上回っている。特に季節風についての設問では、市の平均正答率を大きく上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本の国土や自然環境、日本の周辺の国や地形の理解は、社会科の学習を進める上で、基礎的な部分である。今後も様々な単元の学習活動において、地図帳などを活用し、適宜確認させることで、さらに理解を深められるよう指導する。
農業や水産業	○領域全体の平均正答率は86.7%で、市の平均正答率を5.1ポイント上回っている。 ●米の生産が盛んな地域について地図を読み取る設問では、市の平均正答率を3.7ポイント下回っている。	・知識の着実な習得を図るため、地図の読み取りなどに力を入れるとともに、さまざまな社会的事象に対して、児童が自ら疑問をもち、探究しながら理解ができるよう指導する。 ・言葉の理解だけでなく、それはどんな取組か、どんなよさがあるか、そのことについての自分の意見まで考えさせることで、思考を深めさせていく。
工業生産	○領域全体の平均正答率は90.0%で、市の平均正答率を3.0ポイント上回っている。 ○自動車の製造工程についての設問及び安全性の高い自動車づくりについての設問の平均正答率は100%であった。 ●日本の貿易の変化についての設問では、平均正答率は70.0%で、市の平均正答率を7.4ポイント下回っている。	・今後も自動車づくりについては、消費者のニーズを踏まえて安全・正確で効率的に製造するためにどのような工夫をしているのかを、予想したり調べたりすることで、多角的な思考や理解を通して学習内容の定着を図る。 ・日本の貿易の変化については、資料を読み取り表現する活動を授業に取り入れることで、理解が深まるようにする。
産業と情報との関わり	○領域全体の平均正答率は100%で、市の平均正答率を9.0ポイント上回っている。	・今後も各種資料をもとに産業の様子や現状を捉えたり、国民生活に果たす役割を考えたりする活動を通して、情報が国民生活に及ぼす影響や、それらを活用することが産業を発展させ、国民生活を向上させていることについて考えを深めさせる。
日本の政治	●領域全体の平均正答率は70.0%で、市の平均正答率を3.2ポイント下回っている。特に租税の役割についての設問では、市の平均正答率を17.0ポイント下回っている。	・日本国憲法の基本的な考え方と我々の生活との関係について、資料をもとに理解したり、知識をもとに考えをまとめたりする活動を通して、基本的な知識の定着を図る。 ・国会、内閣、裁判所のそれぞれの役割や日本の政治の仕組みについても、国民生活やニュースなどに関連付けながら基本的な知識の定着を図る。
日本の歴史	○領域全体の平均正答率は81.3%で、市の平均正答率を13.9ポイント上回っている。 ●能についての設問では、平均正答率は50.0%で、市の平均正答率を12.1ポイント下回っている。	・図や写真などの資料を効果的に児童に提示した上で、学習内容についての疑問や予想を引き出し、それをもとに探究活動を行うことにより、歴史的な事象や歴史上の人物の業績などの基礎的・基本的な知識の習得を図る。 ・歴史的な事象同士や歴史上の人物との関連を見いだしたり、歴史的な事象が起こった要因や社会に与えた影響などを整理する活動を通して、歴史的な事象のより深い理解を図る。

# 宇都宮市立国本西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	89.1	72.1	74.6
	図形	92.2	76.5	76.1
	変化と関係	74.0	67.1	59.7
	データの活用	80.0	65.0	64.5
観点別	知識・技能	90.5	73.8	74.7
	思考・判断・表現	75.6	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

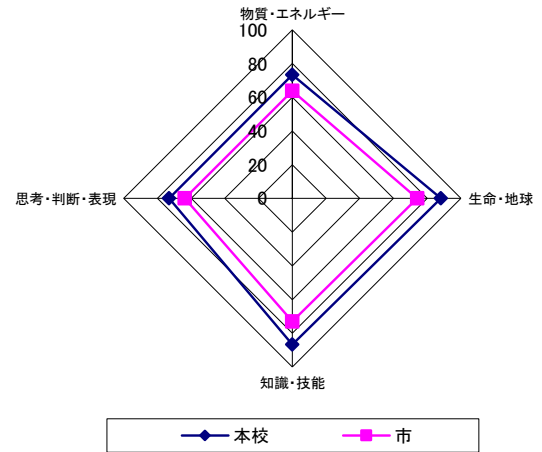
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○領域全体の正答率は89.1%であり、市の平均正答率を17.0ポイント上回る極めて良好な結果であった。</p> <p>●比較量、基準量が分数の場合において、比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選ぶ問題では、本校の正答率は70.0%であった。市の平均である52.2%は上回っているものの、本校の他の設問や領域全体の正答率と比較すると低くなっている。</p>	<p>・数量関係を正しく把握させるため、分数などの複雑な数値であっても数直線を用いて基準量と比較量の関係を視覚的に整理する指導を徹底する</p> <p>・「～は～の何倍か」を求める際に、基準となる量で割るという包含除の構造を、整数・小数・分数の場面を統合して指導し、数値の種類に左右されない判断力を養う。</p>
図形	<p>○領域全体の平均正答率は92.2%であり、市の平均正答率を15.7ポイント上回る極めて良好な結果であった。</p> <p>●線対称な図形の対応する点についての理解を問う問題では、本校の正答率は70.0%であった。市の平均である51.1%は上回っているものの、領域全体の正答率と比較すると低くなっており、図形の性質を正確に捉える点において課題が見られる。</p>	<p>・点対称な図形との違いを明確にしなが、図形の構成要素の関係性を論理的に説明する学習活動を取り入れる。</p> <p>・既習の図形の性質を振り返る際、具体的な操作と用語の定義を結びつけ、抽象的な概念を具体化して捉える力を養う。</p>
変化と関係	<p>○領域全体の平均正答率は74.0%であり、市の平均正答率を6.9ポイント上回っている。</p> <p>●単位量あたりの大きさ・速さにおいて、単位が異なるBセットとCセットを1つずつ買ったときのノート1冊あたりの値段を求める問題では、本校の正答率は50%であり、市の平均である56.1%を下回っている。</p>	<p>・「1あたり量」を求める際に、除法を用いる意味や式の構造を、具体物や図を用いて繰り返し確認する。</p> <p>・割合やグラフの読み取りにおいて、複数のデータから必要な情報を選択し、論理的に処理する問題解決のプロセスを重視した指導を行う。</p>
データの活用	<p>○領域全体の平均正答率は80.0%であり、市の平均正答率を15.0ポイント大きく上回る良好な結果であった。</p> <p>●値に0がある分離量の平均を求める問題において、本校の正答率は70.0%であった。市の平均である71.0%を下回っており、データの個数に0を含めて計算するという平均の概念理解において課題が見られる。</p>	<p>・ドットプロットや度数分布表から、データの散らばりの特徴を的確に読み取る学習活動を継続し、分析力を高める。</p> <p>・「未満」や「以上」などの用語を正しく使い、データに含まれる数値の範囲を正確に記述させる指導を徹底する。</p>

# 宇都宮市立国本西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	73.3	63.8	61.6
	生命・地球	88.1	74.1	73.3
観点別	知識・技能	86.7	73.0	71.3
	思考・判断・表現	73.1	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○領域全体の平均正答率は73.3%で、市の平均正答率を9.5ポイント上回っている。</p> <p>○「ふりこのきまり」「物の燃え方」「水よう液の性質」についてはすべての設問で市の平均を上回っている。</p> <p>●「ろ過のしかたで、正しくないところを指摘できる。」の設問の平均正答率は50.0%で、市の平均正答率を13.1ポイント下回っている。</p>	<p>・複数の実験条件(コイルの巻き数、乾電池の数、おもりの重さ等)と結果を照らし合わせ、どの条件が結果に影響しているかを論理的に導き出して考えられるようにする。</p> <p>・「蒸発皿に何も残らないということは、この水溶液には気体が溶けている」等といった、実験結果から考察を推論する力を養うとともに、ろ過の操作など基本操作の「なぜそうするのか」という根拠を理解させる指導を充実させる。</p>
生命・地球	<p>○領域全体の平均正答率は88.1%で、市の平均正答率を14.0ポイント上回っている。</p> <p>○「流れる水のはたらき」「植物のつくりとはたらき」「生物とかんきょう」「月と太陽」については、すべての設問で市の平均を上回っている。</p> <p>●「脈拍について理解している。」の設問の平均正答率は60.0%で、市の平均正答率を1.2ポイント下回っている。</p>	<p>・川の様子や月の満ち欠けなど、自然事象を実験装置やボールなどのモデルに置き換えて考える際、実際の自然界とモデルの対応関係を明確に意識させる指導を行い、空間的な認識力や考察力を高める。</p> <p>・植物の成長や体のつくり、食物連鎖などの学習において、「もし～がなくなったら」という仮定に基づいたシミュレーションや話し合いを取り入れ、生命のつながりや規則性を多角的に捉えられるようにする。</p>

## 宇都宮市立国本西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・思考する活動の充実	・「取り組みたい」「考えたい」と思えるような場を設ける。	・全ての教科で思考・判断・表現の観点での正答率は、市の平均正答率を大きく上回っている。
・自分の考えを表現する活動の充実	・互いに考えを出し合い、集団での試行錯誤を通して、自分の考えを広げ、深めることができる場を設ける。	・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の設問の肯定割合は88%で、市の肯定割合を上回っている。 ・「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」の設問の肯定割合は92%で、市の肯定割合を大きく上回っている。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・他者の意見を根拠として取り入れたり、自分の考えを再構築するプロセスを重視したりすることで、思考を深める交流活動の充実を図る。
- ・学校図書館を活用した、教科横断的な探究学習の充実を図る。